

### ■コメント

#### 1 新型コロナウイルス感染症

第21週に3,056件の報告がありました。前週(4,391件)と比較して減少しましたが、依然として多い状況が続いています。マスクの正しい着用、手洗い、ゼロ密、換気など基本的な感染対策に加えて、体調不良時の外出自粛、検査の積極的受検など一人一人が対策を徹底することが大切です。

#### 2 梅毒

今年の累計は118件となり、1999年の感染症法施行以降の最多報告数を更新しました。これまでの最多を記録していた年(2018年、2021年)を大幅に上回るペースで報告されています。

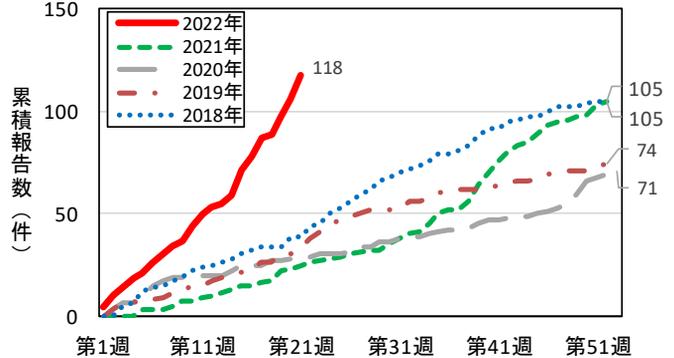
梅毒は性的な接触により感染し、治療せずに放置すると、脳や心臓などに重大な病変を起こすことがあります。また、妊娠中に感染すると、胎児に感染し、流産、死産、先天梅毒を起こす可能性があります。

梅毒に感染した心配のある方は、医療機関を受診しましょう。また、感染した方のパートナーなど、周囲で感染の可能性がある方も検査を受け、治療を行うことが重要です。

#### 3 咽頭結膜熱

定点当たり0.71人の報告があり、増加傾向です。

梅毒の発生動向(広島市)



**保健センターの無料・匿名の梅毒検査**  
 広島市の保健センターでは、無料匿名の梅毒検査を実施しています。  
 詳しくは下記ホームページをご覧ください。  
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2986.html>

### ■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	過去5年間(注)	発生記号
フィルン	インフルエンザ	-	-	0.08		小児科	流行性耳下腺炎	1	0.04	0.12	
小児科	咽頭結膜熱	17	0.71	0.55	▲	眼科	RSウイルス感染症	4	0.17	0.32	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	16	0.67	2.35	◻		急性出血性結膜炎	-	-	0.03	
	感染性胃腸炎	149	6.21	5.73	◻	基幹	流行性角結膜炎	5	0.63	0.53	
	水痘	4	0.17	0.40			細菌性髄膜炎	-	-	-	
	手足口病	4	0.17	1.50	▼		無菌性髄膜炎	-	-	-	
	伝染性紅斑	-	-	0.16			マイコプラズマ肺炎	-	-	0.03	
	突発性発しん	9	0.38	0.40			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-	
	ヘルパンギーナ	3	0.13	0.37			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	0.11	

急増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	▲	▼	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	◻	◻	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	◻		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注)過去5年間の同時期平均(定点当たり)

### ■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	1	38	70歳代
4	レジオネラ症	3	13	70歳代・3人
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1	6	80歳代
5	後天性免疫不全症候群	1	4	20歳代・感染者
5	梅毒	13	118	10歳未満・1人、20歳代・2人、30歳代・4人、40歳代・4人、50歳代・2人

## ■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

報告数	広島市	第17週 第18週 第19週 第20週 第21週	インフルエンザ	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	RSウイルス感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス)	感染性胃腸炎	
			-	5	6	95	-	32	1	9	-	1	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-
定点当たり	広島市	第17週	-	0.21	0.25	3.96	-	1.33	0.04	0.38	-	0.04	0.17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第18週	-	0.17	0.08	3.17	-	0.63	-	0.63	0.08	0.04	0.21	-	0.63	-	-	-	-	-	-	-
		第19週	-	0.21	0.29	4.25	-	0.13	-	0.46	-	0.04	0.17	-	0.13	-	-	-	-	-	-	-
		第20週	-	0.42	0.54	6.50	0.08	0.67	-	0.29	0.04	0.04	0.17	-	0.63	-	-	-	-	-	-	-
		第21週	-	0.71	0.67	6.21	0.17	0.17	-	0.38	0.13	0.04	0.17	-	0.63	-	-	-	-	-	-	-
全国	第19週	-	0.18	0.27	4.15	0.09	0.12	0.01	0.37	0.02	0.04	0.09	0.01	0.17	0.02	0.01	0.02	-	-	-	-	
	第20週	-	0.18	0.32	4.94	0.07	0.19	0.01	0.40	0.03	0.04	0.17	-	0.16	0.01	0.02	0.02	-	-	-	-	

## ■広島市における新型コロナウイルス感染症の発生状況(確定日で集計)

【第21週(5月23日～5月29日)】

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
582	478	436	558	432	258	125	94	93	-	3,056

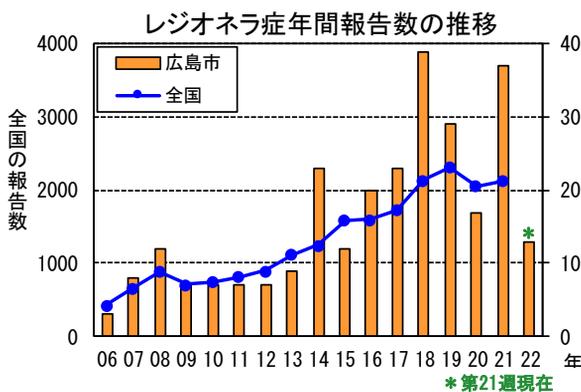
【累計報告数(5月29日)現在】 ※2020年からの累計報告数です。

10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	非公表	合計
11,849	12,414	14,751	13,139	12,709	7,678	4,042	3,016	2,733	67	82,398

**「風邪かな?」と感じたら、かかりつけ医や  
コールセンター(積極ガードダイヤル)TEL:082-241-4566に連絡・相談しましょう。  
全日24時間対応**

\* 新型コロナウイルス感染症に関する最新の発生状況、相談窓口等については、広島市ホームページ「新型コロナウイルス感染症に関する情報(<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/korona/>)」からご確認ください。

## 【参考】広島市におけるレジオネラ症の発生動向について



【参考】  
レジオネラ症Q&A(厚生労働省)  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage\\_00393.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_00393.html)  
レジオネラ症とその予防対策(広島市)  
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/72/2990.html>

2022年の累計報告数が第21週で13件(昨年同時期:14件)となりました。

レジオネラ症は、河川や土壌など自然界に生息するレジオネラ属菌による感染症で、レジオネラ属菌に汚染されたエアロゾル(細かい水のしぶき)などを吸入することで感染します。病型として、重症の肺炎を引き起こす「レジオネラ肺炎(在郷軍人病)」と、一過性で自然に改善する「ポンティアック熱」が知られています。

レジオネラ肺炎は2～10日の潜伏期間の後、咳、38℃以上の高熱、悪寒、胸痛、呼吸困難などの症状が出現します。新生児や高齢者、免疫力の低下した人は、肺炎を起こす危険性が高く、特に注意が必要です。

国内では、循環式浴槽や加湿器の使用、入浴施設による感染事例の報告があり、適切な維持管理が必要です。また、屋外作業中に、舞い上がった土ぼこりを吸い込んで感染することもあるため、必要に応じてマスクを着用しましょう。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。  
URL<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL(082)277-6575FAX(082)277-5666E-Mail:ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp